

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて 118

つまずきをどう克服したか 11 (剣道—簡易竹刀と簡易防具を用いた攻防の指導の工夫)

前・西条市立東予東中学校教諭 松本 智子

本校は農村地域と商業地域、工業地域が混在する校区で、3つの道場で地域スポーツとしての剣道が盛んに行われています。本校の剣道部員は全員が小学校からの経験者です。しかし、近年では剣道を経験している生徒が少なくなってきており、授業において、剣道未経験の生徒たちがいかに楽しく安全に剣道の授業を展開できるかが課題となっています。

本稿は、平成27年度に愛媛県教育委員会から中学校「武道・ダンス授業づくり研究会(剣道)」の研究指定を受け、「全ての生徒が安全な指導体制のもとで楽しく剣道を学習し、学習指導要領に示されている内容を確実に身に付ける」ことを目的に行った実践研究(1年目)をご紹介します。本研究は、流通経済大学スポーツ健康科学部・柴田一浩教授にご指導のもと、平成27年度の中学1年生女子を対象に3年間にわたって行いました。

1 生徒について

本校の女子は活発で運動好きな生徒が多く、保健体育科のどの種目においても仲間と助け合いながら意欲的に活動しています。

しかし、今回研究を行った学年には剣道の経験者がおらず、事前のアンケートでは剣道の学習に期待する反面、痛いとか怖いといった苦手意識をもっている生徒もいました。

2 中学校武道授業充実に向けての取り組み(教育委員会の協力と支援)

平成24年度から全国の中学校で武道の授業が必修化され、西条市の多くの学校は剣道を選択しています。愛媛県では、毎年「武道・ダンス授業づくり研究会」を行なっており、東予・中予・南予地区で武道・ダンスの中からそれぞれ1種目ずつ授業研究しています。

授業研究に当たっては、ワーキンググループを立ち上げ、ワーキ

ングの先生方に単元計画の立案及び指導案審議、研究会の運営等を協力していただき実施しました。

今回の授業では、流通経済大学スポーツ健康科学部の柴田一浩教授が考案された「簡易竹刀」を利用した剣道授業を行いました。単元計画については、県教育委員会のワーキング委員会のご支援のもと、6回の会議を通して検討しました。このワーキンググループでの話し合いの結果、合計9時間の授業計画を作成しました。

また、本校は平成27年度に西条市教育委員会からタブレットなどのICT機器活用モデル校に指定されており、生徒の学習意欲を高めるための工夫として、本単元でもICT機器を使用した学びあ

3 剣道授業についての4つの課題

武道は武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて基本的な技を身

に付け、勝敗を競い合う楽しさを味わう運動です。

特に、剣道は竹刀を使った基本技で相手との攻防を展開し、気剣体が一致した「有効打突」を目指して勝敗を競い合う中で、相手を尊重する精神を学ぶことを重んずる種目です。

このような剣道を指導する上においては、以下の4つの課題があると考えられます。

- 課題1 中学校で初めて学習する生徒がほとんどであるため、剣道具の装着に時間がかかり、基本動作や基本技の一斉指導のみの指導となりやすいということ。
- 課題2 竹刀を使って相手と直接的に攻防し合うので、安全面には特に留意する必要があること。
- 課題3 試合を行っても、学んだ技を生かすことができず、攻防の楽しさを十分に味わえないまま学習が終わってしまうこと。
- 課題4 気剣体の一致のための発声や剣さばき、体さばきについ

4 指導について

本単元では生徒の不安を取り除き、楽しく剣道を学ぶことに主眼を置くとともに、教師の側からの

これらの課題に配慮しながら指導すれば、剣道本来の楽しさを味わわせることができると思えました。

での理解が難しいこと。

課題1、2、3を解決するために工夫し、以下のことを実践しました。今回の学習においては、流通経済大学教授の柴田先生が考案した方法をよりどころとして指導を展開しました。

まず、防具の着装方法を工夫・簡易化して運動時間を確保しました(写真1)。次に、発泡スチロール素材で作った簡易な竹刀を用いて安全性を確保しました(写真2)。単元の導入の段階で簡易なゲーム(写真3)を取り入れて発声を促し、技の練習のまとめの段



写真1 簡易防具をつける様子

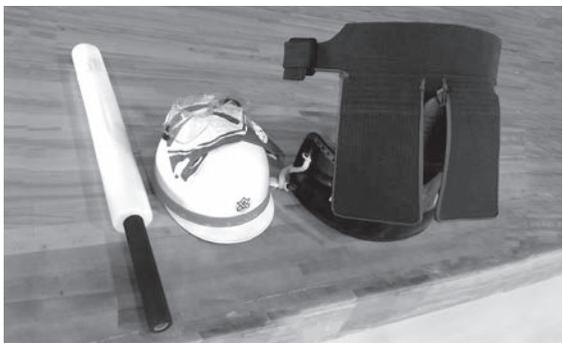
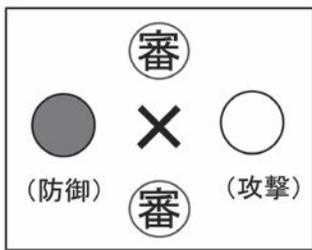


写真2 胴垂れ、ヘルメット、手ぬぐい、ゴーグル、簡易竹刀

攻防交代型試合の行い方



5人で試合者・審判者を決める。
時間制限30秒
攻撃側・・・面か胴を3本攻撃
防御側・・・全て防御(面抜き胴可)

判定のポイント

打突部位

大きな声

残心



試合終了後、審判は判定理由を試合者に伝える。

図1 攻防交代試合の行い方

手の構えを崩すことを心掛けるように指導しました。また、防御側の生徒は面抜き胴のみ打つことができるので、相手が面に来るところを見計らって胴を狙うことを意識させました。双方ともに相手の動きに応じて打突しようとしている場面が多く見られました。

振り返り学習では、良かった点、改善すべき点について話し合いをしました。



写真4 攻防交代判定試合の様子



写真3 簡易ゲーム

階で出来栄を競い合う試合を取り入れたり、相手の動きを予測・判断しやすくする攻防交代型の試合(写真4)を取り入れたりすることで、攻防の楽しさを味わわせるようにしました。また、より意欲的に取り組ませるため、基本技の習得にICT機器を活用した学びあい学習(写真5)を取り入れました。



写真5 タブレットを用いての基本技練習

▽攻防交代型の判定試合の途中でICT機器の活用

判定試合の途中で指導者が試合の様子を撮影し、優れた活動を取り上げ、生徒に紹介しました。教えられた技能を生徒自身がつなぎ合わせて独自の技を使う場面を紹介すると、見た生徒は「すごい!」と感じている様子でした。自分で判断し、技をつなぎ合わせることが指導者が評価し、思考・

▽しかけ技と応じ技の練習(写真6、7)

しかけ技と応じ技の指導で注意したことは、打突部位を正しく打っているか、大きな声が出ているか、残心をしているかの3点です。

判定試合で評価のポイントになることを基本打ちからも意識するように指導し、生徒は簡易竹刀で打たれても痛くないことを体感することで、力強く打ち込むことができていました。

面一面や面一胴などの連続技では、技から技にスムーズに移行す



写真6 面打ち(しかけ技)

判断力の向上を図りました。

▽ワークシートの活用

攻防交代型の判定試合の時にグループでワークシートを活用しました。

5人で試合者、審判、記録者を決め、交代で試合を行いました。審判が提示した判定結果を記録者が学習カード(図2)に記録し、審判が判定理由を説明します。

お互いにコミュニケーションをとることで有効打突にするためのポイントを理解することができました。

5 成果と課題

簡易防具の使用により、短縮化・簡素化を図ることができ、着装にかかる時間の問題を解決することができました。簡易竹刀の使用によって安全に活動できるとともに、竹刀に対する恐怖心がなくなり、生徒の安全面への不安が軽減されました。また、攻防交代型

ることを指導し、歩み足ではなく踏み込み足、送り足を徹底させました。面を打つとみせかけて胴を打ったり、胴を打つとみせかけて面を打つたりと生徒の工夫する様子が多く見られました。

▽攻防交代判定試合(図1)

判定試合では、限られた条件の中で打突するタイミングや打突前のフェイントの工夫を行いました。

攻撃側の生徒は30秒で3回しか打突することができないので、相



写真7 面抜き胴打ち(応じ技)

の判定試合をおこなったことで判定がしやすくなり、試合の楽しさも味わうことができるようになりました。そして、ICT機器の使用により、活動の様子を生徒にフィードバックさせることができるとともに、模範動画で生徒の思考や理解を深めることができました。

課題としては、「剣道」への興味・関心はもたせることができたものの、「武道」としての剣道の精神面や礼儀の意味を本当に理解させることが不十分だったような気がします。また、大きな声は出るが、踏込と打突の一致には至らなかったため、気剣体の一致を目標とした学習の工夫を考えていきたいと思えます。

6 終わりに

剣道未経験の生徒たちに、いかに楽しく安全に授業を展開することができたかを考えながら授業を達しました。やはり目的を達

